

(様式1)

令和元年度 自己評価表 (1枚目)
(平成31年度)

愛媛県立松山北高等学校中島分校
学校番号 22

教育方針	自律・進取・敬愛を重んじ、豊かな人間性と社会性を養うとともに、個性や能力を生かす教育の充実を目指し、平和な国際社会に貢献できる国際感覚豊かな人間を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 — 感謝から自立と共生 — 1 基本的な生活習慣の確立を通して、自律心を育みます。 2 体験活動の実施と部活動の充実により、豊かな人間性と社会性を育みます。 3 基礎・基本の定着を図るとともに、社会人基礎力を育みます。 4 能力・適性に応じたキャリア教育を推進し、生徒一人一人の進路希望を実現します。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	適切な教育課程の編成	多様な生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成する。	A	教員の評価はA、生徒の評価はB、保護者の評価はAとなっている。	多様な生徒に対応するため、適切な教育課程を研究・分析・検討し、取り組む。
		教育活動全体を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、豊かな人間性と社会性の育成に努める。	A	教員の評価はA、生徒の評価はB、保護者の評価はAとなっている。	さらに、地域の特色や人的・物的資源を活かした体験型学習の充実を努める。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動の紹介発信に努める。	A	ホームページは毎日更新し、1日平均約700アクセスがあった。	ホームページの全国募集特設ページを充実するなど、さらに、中島分校の良さをアピールする。
		年間10日以上教育活動公開日を確保するとともに、来校者数の増加を図る。	B	授業参観、体育大会、文化祭等の学校行事では、昨年度より来校者数が増加した。	今後は、特にPTA総会の参加者増を図り、より参加しやすい工夫と情報発信を行う。
		地域での奉仕活動を年間10回以上実施する。	A	教員の評価はA、生徒の評価はA、保護者の評価はAとなっている。	今後とも、地域を愛し、地域を元気づけるとい意識を持って活動できるよう工夫する。
学習指導	教科指導の充実	個に応じた指導の工夫・実践、ICT機器の活用により、生徒に分かる喜びと意欲を持たせる。	B	生徒の評価はAであるが、ICT機器の活用は教科によって多少偏りがあった。	教室のWi-Fiなどを利用し、ICT機器の活用をさらに取り入れ、指導の改善と工夫を行う。
		各種検定試験において、3級以上の資格取得率100%を目指します。	B	2年生は3級以上取得92.3%、3年生は2級以上取得100%となった。	どの学年も各自の能力に応じた多種目の資格取得を目指していきたい。生徒の個性や実力を見極め、結果に繋げたい。
	家庭学習の充実	学習に対する意欲と態度を育て、個に応じた課題により、家庭学習1日2時間以上を確保する。	C	家庭学習の平均時間は、1年1.5時間、2年1.6時間、3年2.2時間であった。	1年次から自ら学ぶ態度を育成する観点から、生徒に応じた課題の改善と工夫を行う。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に努め、年間出席率95%以上を目指す。	B	各学年学年末の出席率は、1年80.6%、2年91.2%、3年98.8%であった。1年生の基本的な生活習慣の確立を早期に図る必要がある。	全体で90.2%であった。来年度はさらに基本的な生活習慣の確立を図り、生徒自身を高めてもらいたい。
		あいさつができる、身だしなみが守れる、清掃にまじめに取り組める生徒100%を目指す。	A	ほとんどの生徒が身だしなみを守っている。清掃に関しても熱心に取り組む姿が伺えている。	教職員間の共通理解をさらに深め、保護者とのコミュニケーションを図りながら、対象となる生徒に丁寧な指導を行う。
		生徒指導に関して、保護者に適切な情報発信を行い、家庭と学校の指導の連携を図る。	A	長期休業中などに心得を配り、家庭にも呼びかけを行っている。スマホなどの使い方についても外部の協力を得て指導している。	保護者に対して必要な情報をホームページ等を通して出来るだけタイムリーに発信する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

(様式1)

令和元年度 自己評価表 (2枚目)
(平成31年度)

愛媛県立松山北高等学校中島分校
学校番号 22

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	個人面接の充実	面接を学期ごとに一人2回以上(年間6回以上)行い、生徒の心情を把握し、生徒理解に努める。	B	学年団による定期的な面談のほか、誰にでも相談ができるような体制である。	個に応じた生徒指導をしつつ、不公平感を持たせないようにする。
	交通安全指導の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通事故・違反ゼロを目指す。	B	ヘルメットの着用も良好であり、生徒も交通ルールを遵守している。	来年度から保険等の加入義務化となるので全員加入させる。さらに、事故ゼロを目指し交通ルールの遵守とマナーの向上に努めたい。
	教育相談・特別支援教育の充実	教職員の連携と情報の共有を図り、一人一人に応じた支援体制を整えとともに教職員の対応力を高める。	B	教員間で共通理解を持って指導することができた。2つの研修を受講し、教職員の対応力を高めることができた。	保護者や関係機関との連携を取りつつ、一人一人の現状を把握し改善と検討を出来るだけ早期に行いたい。
進路指導	進路指導委員会の充実	進路指導委員会を全学年、年3回以上実施し、早期に適切な進路指導を行う。	B	就職と進学で迷った生徒がおり、最終的に進路実現できたがかなり後半までもつれ込んだ。	1年次から進路意識を持たせ、少しでも早く目標設定をして、そこに向けて具体的にどのような対策が必要かについて担任を中心に組織全体で共有しておく。
	進学・就職指導の充実	個に応じたきめ細やかな指導を徹底し、進学希望者の進学と就職希望者の就職100%を目指す。	B	100%達成はできたが、高みを目指し、合格に向けた具体的で戦略的な早期対策はできていなかった。	日々の学習を積み重ね、実力と自信を高め、自立して頑張り続ける学生を育成する。
		進路指導に関して、担任及び進路課による面談を充実させる。保護者に適切な情報発信を行い、家庭と学校の進路指導の連携を図る。	B	家庭での動きと学校からののはたらき掛けがうまくかみ合わなかったため、受験計画が紆余曲折した。	3年になってからではなく、1年次から様々な情報を蓄積させておき、種々の選択肢を想定しながら早期対策する。
特別活動	特別活動等の充実	部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒100%を目指す。	A	新たに、サイクリング同好会を立ち上げ、生徒は部活動等に積極的に取り組むことができた。	生徒数増加に伴い、全員がより充実した活動ができるような雰囲気と工夫が必要である。
		学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛え、充実感や達成感を感じ取らせるように努める。	A	愛ランド・ハイスクールサミットなど、様々な学校行事を行い、生徒も積極的に活動することができた。	今後、現在ある学校行事を見直し、改善できるものに新たなものを取り入れていきたい。
人権・同和教育	人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルーム活動を充実させる。	B	ホームルーム担任が教材作りを工夫し、差別解消に向けた行動への意識が高まった。	教員の自己研修を進め、教材を工夫し、差別解消に向けて行動できる生徒を育てる。
		人権委員会活動、講演会、人権標語、人権ポスター等により、人権意識を高める。	B	校内では毎月発行の人権だよりで生徒・保護者への啓発を行うことができた。他校の人権委員との交流は不十分だった。	保護者や生徒への啓発や、他校との交流、フィールドワークの積極的に参加していく。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	適切な清掃配置を行い、巡視指導等により生徒一人一人の意識を高め、環境美化を図る。	B	校舎の老朽化に伴い、環境美化にも限界があるが、清掃等には時間いっぱい取り組むことができていた。	巡視指導と作業成果の評価を行い生徒の環境美化に対する意識の高揚を図る。
		生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。	A	毎月の芝生・校内作業及び、PTA・職員校内作業等により、芝生や校庭の管理ができた。	季節や天候を考慮しながら効率よく実施する。
	健康管理の充実	実践力につながる保健だよりを発行し、健康管理の徹底を図る。また、食育の推進に努める。	A	季節に応じた内容の保健だよりの発行を行った。給食提供が始まり、食育の推進にも努めた。	生徒や保護者に対し、必要な情報をタイムリーに発信するように努める。
危機管理、安全管理の充実	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。	B	防災避難訓練等では真剣に取り組むことができた。松山市総合政策部危機管理課から資機材が届き、保管場所を周知した。	今後更に危機感を持って、様々な工夫をし、訓練や研修に努めていきたい。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。